

「新経営陣による記者会見」 発言内容

平成 15 年 6 月 27 日におこなった記者会見における当社社長 細谷 英二、取締役 小池 俊二、取締役 箭内 昇、取締役 渡邊 正太郎の発言内容を掲載いたします。

<細谷会長>

25日にりそな銀行、本日よりそなホールディングスの会長に就任いたしました細谷でございます。改めて私の使命の重さを感じると同時に、多くの方のご支援、ご協力がなければ再生の道筋が画けないということを痛感しております。

私が就任して早速取り組む課題は、既に発表しておりますように、りそなグループの資産の洗い直しをおこないまして、りそなグループの本当の体力を把握したいということにあります。本日、取締役会でデューデリジェンスについて、これまでの実績と相当集中して作業をしていただくということから、三菱東京フィナンシャル・グループ等の監査の経験のある監査法人のトーマツさんに、来週以降、具体的な作業の契約等の交渉をはじめたいと思っています。その中で具体的な作業スケジュールの意見を聞いた上で正式な契約をさせていただきたいと思っております。

もう一つの大きな課題は、社内改革であります。来週月曜日に私自身の言葉で全行員にメールを送りたいと思っております。そして、幹部行員の皆さんにも、肉声で私の幹部行員に期待することの所感を述べたいと思っております。もちろん東京、大阪それぞれ時間を取りながら私のメッセージを伝えたいと思っております。その翌週には、若手行員によるプロジェクトチームのスタートをいたしたいと思っております。おかげさまで行内の反応も高く、既に700名以上の若手行員の方がこのプロジェクトチームに参加したいという要望をしているということですので、早急に面接等をしていただいて、その中からチーム編成を考えたいと思っております。いずれにしろ大変な仕事だと思っておりますので、皆様方の温かいご支援、ご協力をお願いいたしまして簡単ではございますが就任の挨拶とさせていただきたいと思っております。

<小池取締役>

小池でございます。私は大阪商工会議所の副会頭をしておりますので、主として関西、中小企業、ここに対する金融機関の姿勢を明確にしていくということで、りそなホールディングス、りそな銀行の社外取締役を引き受けたわけです。いずれにしてもこの大役を引き受けて、細谷会長、ならびに川田社長、りそな銀行の野村頭取をバックアップしていきたいと思っております。

<箭内取締役>

箭内でございます。このたび社外取締役と監査委員会の委員長ということも拝命しております。今回のりそなグループは、委員会等設置会社という新しいガバナンスを目指す銀行としてスタートするわけでございまして、監査委員会の機能を十分に発揮するように努めたいと思っております。細谷さんは業務執行、我々はそれをモニターするということで、車の両輪みたいな格好で、このりそなグループを立派に再生させることにお役に立てればいいなと思っております。皆様のご支援をよろしく願いいたします。

<渡邊取締役>

渡邊でございます。今日の総会は大変まじめな討議といいですか、有意義な総会であったと思います。我々の委員会等設置会社という新しい商法規程によりまして、ガバナンスの取り組みというのは、銀行とかそういうのを超えて、新しく日本の会社経営の大きな試金

石になるのではないかと思います。今まで社外取締役の打合せを2回やり、今日も取締役会もやりましたが、いろいろな方面からいろいろなアイデアを出されて、大変活発な議論が行われました。総会と取締役会の中にこのビルのツアーもやりまして、1階の店頭を見ても、こうあるべきではないかという議論がなされており、より優れた健全化計画というものが近いうちに一段と練り上げられるのではないかと考えております。2番目は、銀行のビジネスモデルというのは銀行間の競争の中で築き上げられていくと思いますが、しかし大部分の銀行業務というのは、コンピュータ、顧客への窓口業務、その他を通じ、サービス業とか一般の製造業と同じ一つの仕事をやっている。頭は銀行業だけど体と神経は先端をいくサービス業、製造業の効率性、顧客サービスということを組み入れていくと、りそなの再生はありうると感じました。3番目は、今まで銀行の透明性というのはマーケットも消費者も少しイライラしているというか、今日もひとりあたりの人件費の問題も出ていましたが、これだけ公的資金を入れて責任があるというのは、銀行の今までの枠を超えた透明性というものを引出していくべきではないかと思います。そういうことでりそなが競争力の回復ができれば、今、従業員がモチベーションを失ったのではないかといろいろ心配はありますが、何よりも健全な会社で働くという従業員にとって一番幸せなことであり、健全化されれば従業員というのはやる気を益々おこしてくるのではないかと考えており、傍から心配するより行内から盛り上がってくるのではないかと期待しております。まだほんの僅かな接触しかありませんが、これが就任の感想であります。

以 上